

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月19日

令和5年12月実施 職員数8名 回答率100%

事業所名 関市西親子教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	・乗り物や遊具など必要に応じて出し、広いスペースを確保できるようにしている。 ・発音の練習や面談に使用する部屋の利用状況を確認して使用している。	・昨年度と同様に、各部屋の利用予定の確認を朝会で行う。 ・各部屋を利用しやすいように整えておく。
	2 職員の配置数は適切である	38%	62%	・次年度の通所見込みの利用者数を算定し、療育を必要とする方が待機することがないよう、療育回数を調整して対応している。 ・年度途中であっても会計年度職員を募集している。	・次年度の通所見込みの利用者数を予測し、年度始めに職員の確保に努める。 ・個別療育は今後ますます重要度が増すと考えられる。丁寧に対応していきたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	・おもちゃ棚にイラストをつけて設置し探しやすくしたり、おもちゃを片付ける専用の場所を設置し片付けやすくするなど見直した。 ・職員ごとに靴箱やロッカーなどを色分けし、文字がまだ読めない子どもでも分かりやすくしている。	・活動しやすい環境となるように、随時見直しを行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	・活動空間の清掃、遊具・ドアノブなど手で触れた物を毎日消毒している。 ・子どもの実態に合わせて遊具の配置やセッティングを行い、安全面も配慮している。 ・子どもの特性や活動内容に合わせて、個別で活動できる個室と体を動かす活動ができる広い空間がある。	・今後も清潔で、心地よく過ごせる環境を維持するために、引き続き毎日掃除や消毒を行う。また、療育終了後には子どもや保護者と一緒に片づけを行う。 ・子どもの特性や活動内容に合わせて、職員同士で確認しながら環境設定を行う。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	12%	・朝会や職員会で議題に挙げ、意見を出し合いながら考えている。	・議題や課題について、全ての職員の意見を出し合い検討する。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	・事業所評価のほかにも、行事ごとの感想や年度末の療育アンケートで、保護者の意向を聞くようにしている。 ・評価の結果を職員全員で確認し、保護者の意向を共有している。	・今後、検討が必要な課題がある場合は職員全員で行い、業務改善に努める。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	・自己評価表、保護者向け評価表の結果と改善内容を職員間で話し合っている。 ・結果をホームページで公開し、いつでも見られるように施設内に掲示している。 ・月通信を通して、ホームページで公開していることなどを伝えた。	・評価表の結果を踏まえて、業務改善に努めたい。 ・今後もホームページで公開していることを掲示や口頭で周知する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	88%	12%	・第三者評価による外部評価は受けていない。 ・運営委員を年1回開催し、事業内容や課題についてご意見をいただいている。 ・指導方法研究会を行い、外部の意見をいただく機会を作っている。	・運営委員会を開催し、事業に関する課題を検討していきたい。 ・感染症拡大の状況を見ながら、これまで行っていた指導方法研究会や行事に伴うボランティア、見学者の受け入れ等を行い、外部の方のご意見をいただく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	・外部の研修へ参加し、研修内容について朝会や職員会で報告している。 ・職員間でケース検討会、内部研究会を行っている。 ・指導方法研究会を行い、講師の先生の助言や外部の方のご意見をいただく機会を作っている。	・研修を受けやすくするため、研修時間を確保しやすい環境作りや、次年度の研修予定や研修計画を立てる。 ・職員間のケース検討会の実施を増やし、資質の向上に努める。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・半年に一回、保護者、担任、児童発達支援管理責任者で面談を行い、個別支援計画・経過について話し合いを行っている。 ・担任、児童発達支援管理責任者、相談支援専門員による担当者会議を行っている。 ・面談の前に保護者にモニタリングシートを記入していただき、親子のニーズを確認している。	・子どもの捉えや理解を深めるために、ケース会議、支援会議、保護者との面談をする時間を計画的に確保するよう努める。 ・保護者の方が読みやすい内容について検討していく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	・必要に応じてKIDS乳幼児発達スケール、新版K式発達検査、S-M社会生活能力検査、構音検査など諸検査を行い、個別支援計画に反映させている。	・多方面から客観的に把握できる検査の利用などが検討できるように、今後も、外部講師による研修や圏域で実施されるアセスメントに関する研修への参加を検討する。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	・半年に一回、保護者、担任、児童発達支援管理責任者で面談を行い、「発達支援」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容について話し合い、個別支援計画を作成している。	・より子どもの実態や、保護者のニーズに合った支援計画が作成できるよう、職員研修やケース検討会を行っていく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	・療育活動に入る前に支援計画を確認する、日々の記録を記入する際に支援計画を確認することを心がけている。	・今後も、子どもの姿やニーズを把握するとともに、保護者の意向を聞きながら個別支援計画を作成、必要に応じて修正し、計画に沿った療育を行う。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	・個別活動については、保護者や、療育時間・場所を共有する担任同士で話し合いをしている。 ・集団活動においては、事前にグループと担当係を決めて、話し合いをしている。	・今後も、個別活動と集団活動について、意義や活動内容、療育の方法など職員で話し合い計画していく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	・季節ならではのあそびや、運動あそび、伝承あそびなど、職員同士でアイデアを出し合いながら立案している。 ・子どもが興味を持っている活動や経験したことのある活動とともに、製作やそり滑りなどコーナーあそびを設置することで、新しい活動も取り入れるようにしている。	・今後も療育の内容が固定化しないように職員間の情報交換や子どもの興味やあそび方について、その都度見直しを行う。あそびの種類や、あそびの中で育まれる力について、職員間で意見交換する機会を作ったり、手あそび、リズムあそび、グループでのあそびなどの研修を行う。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・子どもや保護者のニーズに合わせて個別活動を中心に、小集団での活動やクリスマス会、小学校区別、学年別などの集団活動や体験活動を計画している。	・今後も同様に努める。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・個別療育については、個々の計画に沿って支援内容や活動について、事前に保護者や、療育時間・場所を共有する担任同士で話し合い、準備している。 ・集団活動については、職員会や朝会などでその都度確認している。	・事前の話し合いや準備時間の確保がしやすいように業務内容や勤務時間の使い方を検討する。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	・活動の終了後に、子どもの様子や関わり方など、職員同士で意見を出し合い振り返りを行っている。振り返りの内容を次の活動計画に活かすよう心がけている。 ・打ち合わせや振り返りに全職員が参加できない時は、会議録を確認できるようにしている。	・振り返りの時間の確保がしやすいように業務内容や勤務時間の使い方を検討する。 ・振り返りの内容を記録し、職員間で共有できるようにしたり、次の活動に活かせるようにしていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・支援計画を確認しながら振り返り、その日の記録をとり、次回の療育に活かせるようにしている。 ・毎年、記録の取り方について検討している。	・記録を書く時間の確保、記録の内容、書き方など、より改善できるよう見直ししていく。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	88%	12%	・半年に一回、相談支援専門員の支援計画を参照し、モニタリングシートを保護者に記入してもらい、保護者、担任、児童発達支援管理責任者で面談を行うことで、個別支援計画の見直しを行っている。	・今後も面談を半年に1回行い、支援計画や療育内容の見直しを行う。 ・支援計画の作成が円滑に行えるよう、日頃の業務時間の使い方や記録の取り方など工夫する。	
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	・相談支援専門員より保護者からの聞き取りの内容を伺い、担任、児童発達支援管理責任者で子どもの実態について話し合っている。	・今後も子どものニーズや環境、保護者のニーズなどに合わせ、担当者会議のメンバーを検討していく。	
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・保健センターの健診に参加したり、親子への対応について連絡を取り合っている。親子の状況に合わせて、家庭児童相談室、他の児童発達支援事業所と連携をとっている。 ・地域の子どもの支援会議に参加している。	・今後も連携が必要な関係機関や、連携の方法、内容等について検討していく。	
23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・保護者より、医療機関受診時の情報や他施設や園での姿を教えてください、ノートを利用して子どもの姿の理解や関わりを生かすようにしている。	・今後も、関係機関と連携した支援を行っていく。	
24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	・医療機関等と連絡体制を整えている。 ・必要に応じて、病院の受診時同行したり、子どもの療育経過の報告書を作成し情報提供している。	・今後も、医療機関と連絡体制を整えていく。	

関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズに応じて、園見学や就園前の相談、懇談を行っている。 保護者のニーズに応じて、三者(保護者、園、学校、療育者)での引継ぎなど移行支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 通所児親子が安心して就園できるよう、今後も保護者のニーズに合わせて情報提供を行うことで関係機関に引き継ぎ、連携を行っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズに応じて、学校見学や就学前の相談、懇談を行っている。また、子どもの実態について、学校、放課後等ディサービスへ引継ぎを行い、相互理解に努めている。 就学相談会や就学までの諸手続きの流れなどを保護者に紹介するなど、情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して就学を迎えることができるよう、また学校生活が充実出来るように今後も引継ぎや情報共有を行う。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 他施設の研究会や研修に参加している。 オンライン研修を利用して、職員の研修を行った。 指導方法研究会を行い、講師からの助言、参加いただいた方からご意見をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 内部と外部の研修の内容や、回数、時期等を検討し、職員の資質向上に努める。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 三歳以上児は地域の保育園、幼稚園に入園一緒に活動する機会が持っている。 公園、図書館などの利用や療育時間の中で子ども同士の関わりが持てるよう支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、通所児以外の子どもと活動する機会を作るよう努める。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 内容に合わせて参加する職員を決め、職員会などで報告を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も会議等参加した職員が報告を行い、職員間で共有する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中で、必要に応じてその都度保護者に伝えたり、ノートや電話も利用しながら情報を共有するようにしている。 保護者と子どもの捉えを共有するためや保護者からの相談に応じて、話す機会や面談を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 親子に合わせた伝え方や、一方的な伝達にならないよう、どのような伝え方がよいのか、また、保護者の子どもへの思い、課題等について、どのように聞き取りをしていくことがよいのか、など検討する。 懇談の時間の取り方の工夫や時間の確保に努める。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	88%	12%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に療育や活動に参加していただくことで、子どもへの関わり方や対応の仕方など、その都度お伝えしたり一緒に考えるようにしている。 必要に応じて、他機関の研修、プログラムについて紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 親子療育やペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムについて、職員が知識を持ち、必要な療育や支援を考えていく。 家族支援プログラムについて、保護者への情報提供の方法を検討する。 	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 利用契約時に説明を行っている。 施設内に常時、掲示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も利用開始時の説明に合わせて、一年に一度再確認できるよう努める。また、保護者がわかりやすい説明の仕方を考える。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 半年に一回の面談時に保護者のニーズと意向を確認し、個別支援計画の説明を行い、保護者の同意を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、子どもの姿、保護者の思い、環境等を把握しながら、個別支援計画を作成し、保護者に説明の時間を設け、同意を得ていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 半年に一回、保護者、担任、児童発達管理責任者で面談を行い、保護者の悩みなどを伺っている。 保護者のニーズに合わせて、面談の時間を設けたり、ノート、電話での対応や担任以外の職員も対応したり、先輩保護者や関係機関を紹介するなどの支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、定期的に保護者との面談の機会を作り、相談に応じていく。 保護者が相談しやすい雰囲気作りや職員との信頼関係作りを大切にしたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 親の会「えがお」の活動に職員もサポートに入り、保護者の活動を支援している。 親の会で作成している文集に職員も参加している。 今年度は保護者同士の交流の機会を増やし、少人数での「お話し会」「先輩お母さんの話を聞く会」への協力や、行事の準備などを保護者とともに行い、保護者同士の交流を支援した。 親の会役員会の報告を掲示し、保護者に周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、親の会活動について分かりやすく、見やすい掲示を工夫したり、保護者ととも活動内容を考えるなど、親の会活動を支援していく。 今後は、保護者同士の交流だけでなく、行事など家族で参加する機会や方法を考える。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、担任、児童発達支援管理責任者、相談支援専門員で連携して対応している。 相談の申し入れがあった場合は、療育時間以外にも面談の時間をつくり対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、必要に応じて、保護者と話す時間を確保し相談に応じたり、相談をしやすい関係、担任以外の職員も含め、話しがしやすい関係を日頃から作っていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 月通信や行事報告、防災訓練実施報告、「ほけんだより」「図書だより」などを作成、掲示している。保護者に声をかけてお伝えしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、行事予定を早めにお知らせしていく。 掲示内容を保護者の悩み事や関心事に合わせて、担任から伝える。 ア通信や連絡は、スマートフォンのアプリの活用を検討している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援利用契約書第7条-第3項に基づいて対応している。 掲示物や配布物に写真を掲載する際、保護者に確認を取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、個人情報の取扱いに十分に注意する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの様子に合わせてイラストなどを利用し、見て分かりやすいように情報提供をしたり、活動の流れが理解しやすいよう、歌やダンスを取り入れるなど配慮している。 必要に応じて、多言語で書類を作成したり、文字の拡大、口頭だけでなく書面にする、個別に説明するなど配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各職員が配慮している事柄について、職員間で情報共有し、意思の疎通や情報伝達のために何が必要か検討していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	88%	12%	<ul style="list-style-type: none"> 地域の民生委員の方のボランティアの協力を得たり、施設見学の受け入れをしている。 運営委員会に地域の方や保護者に参加していただいている。 ザリガニ釣りやメダカ釣りなどの療育活動に協力いただく機会や散歩や公園あそび、図書館の利用などで地域の方々とふれあう機会を大切にしている。 地域の農家の方からいただいたお米を使って活動を行い、写真や感想を送って交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を行いながら、地域の方々との交流など、どのような活動が可能なのか検討していく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 警察、事務所の方々と防犯訓練を行い、具体的な対応について学んでいる。 ノロウイルス感染対策について、職員で研修を行った。 実施した訓練や研修の報告を作成、掲示し利用者への周知を図っている。 防災訓練週間を設け、訓練内容の周知を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、実施した訓練内容、各種マニュアル等を通所児保護者に周知するよう努める。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 職員による不審者対応の訓練のほか、地震、火災を想定した避難訓練を通所児親子に参加してもらい実施している。 実施した訓練内容を掲示して、利用者への周知を図った。訓練実施後、職員で振り返りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施した訓練内容等の掲示を分かりやすくし、保護者に周知していく。 	
非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 来所時に体調の確認を行っている。 通所開始時に基本情報として、保護者に確認している。 服薬は保護者に管理していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報の変更等がある時は、保護者から申告してもらい、面談で確認し把握していく。 確認した内容について職員で共有する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	88%	12%	<ul style="list-style-type: none"> 指示書は求めていないが、医師に確認した内容を保護者から伺い、その情報をもとに対応している。職員全員で情報共有するようにしている。 給食での食事指導の際には、保護者と一緒に献立を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギーで通院している子どもについて保護者の意向を確認し、職員で共有するとともに、配慮することについて検討する。 飲食する場合は事前に保護者と職員で話し合い、調理員と連携をとっていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハット事例集を作成し、職員会で報告して情報共有している。また、事例について職員で話し合い、再発防止に努めている。 年度初めに、職員で危険箇所や注意が必要な場所や場面について確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットの報告、事例集の共有を図るとともに、予防対策について職員間で検討していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のセルフチェックとそのまとめ・振り返りを年3回行い、虐待防止の意識を高めるようにしている。 必要に応じて、家庭児童相談室など他機関と連携を取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、職員全員が意識できるよう、定期的にセルフチェックと振り返りを行っていく。 虐待防止研修に代表者が参加し、研修内容を報告、情報共有できるようにする。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	88%	12%	<ul style="list-style-type: none"> 必要な場面で、その都度保護者の意向に沿って対応している。 虐待防止研修を職員間で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体的拘束について必要に応じて保護者と相談したうえで、支援計画に記載していく。